

2022年度 第1回 北栄町歴史民俗資料館運営委員会 議事録

日時 令和4年6月10日(金)
午後1時15分～2時24分
場所 中央公民館 大研修室

参加者 北栄町文化財保護委員 : 横濱純一・南場兄一・中前雄一郎・遠藤晃子・荒木千彰
老人クラブ連合会代表 : 吉田康博
自治会長会代表 : 友定修一
女性団体連絡協議会代表 : 竹原光余
事務局 : 北野昭雄教育長・前田美友紀生涯学習課長・
福庭克展文化スポーツ推進室室長・山本誠文化スポーツ推進室主事・
門脇博北栄みらい伝承館学芸員

1. 開会

課長 : 2022年度第1回北栄町歴史民俗資料館運営委員会を開催します。北野教育長あいさつをお願いします。

2. あいさつ

教育長 : 4月から教育長を務めさせていただいています北野昭雄と申します。よろしくお願ひします。お集まりいただきありがとうございます。委員の皆さんには大変お世話になります。よろしくお願ひします。

3. 自己紹介

課長 : 今年度、新しい任期になりましたので、皆さん自己紹介をお願いします。(各人、所属と名前を紹介)

4. 委員長、副委員長の互選

課長 : 立候補の方いらっしゃいましたらお願いします。(立候補なし)
事務局で予めお願いしている方でよろしいでしょうか。(異議なし)
委員長を横濱委員、副委員長を遠藤委員にお願いします。
以降は委員長に進行をお願いします。

5. 報告事項

(1) 2021年度実施事業について…【資料P.16～17】

委員長 : 事務局お願いします。

山本 : 資料の差し替え、修正箇所を説明。

資料16ページ。民俗資料、考古資料の再整理・再保存、資料を活用した展示を実施。運営委員会 年2回。

展示事業については6本の企画展を実施。(それぞれの内容・入館者数を報告)
年間の総入館者数は3,022名。

委員長：ただ今の報告に関して、ご意見、質問がありましたらお願いします。

委員長：入館者数についてどう評価しますか。

門脇：山本奈美枝展は教室生、趣味としている人は繰り返し来館された。

山本奈美枝さんのことが展示を通して広めることができた。

出土遺物展については、コロナ禍もあって入館者は多くはなかった。

自然展の方は若い世代を中心に多くの来館があった。家族連れが多かった。

齋尾展については、町内だけでなく町外からも反響があった。新聞等にも取り上げられ入館者が多かった。

不滅の刀展は県の事業と連携して開催。刀剣フォーラムの開催、テレビでの紹介もあり、会期は短かったが多くの来館者があった。

生活道具の展示は、学生などの若い世代に見てもらいたかったが、伸び悩んだ。

委員長：他にありませんか。ないようですので、その他の設備改修についてお願いします。

山本：今年度、屋根瓦の修繕を予定しています。

6. 協議事項

(1) 2022年度事業計画について…【資料P.3~15、18~19】

委員長：事業計画の中でまず展示年間計画、開催要項までを事務局お願いします。

山本：資料4ページ。企画展7回、常設展は3回入れ替え。企画展の内容については門脇学芸員から説明してもらいますが、年間スケジュールは資料3ページのとおりです。企画展については門脇学芸員をお願いします。

門脇：資料5ページからが今年度の企画展の資料となっています。

山下聖二洋画展：入館者は31日間の開催で352名。ギャラリートークを実施し、24名参加。

北栄町の歴史：現在開催中の企画展。江北浜新田の開墾を遂行し、「砂丘開拓の父」ともいわれる榊田新蔵の偉業を中心に、18世紀中ごろから始まる北条砂丘開拓の歩みを紹介。

夏休み自然展：北栄町で見られる鳥と魚に焦点をあて、「天神川の魚を守る会」の会長であり、委員でもある中前雄一郎氏が撮りためた写真を中心に紹介。

田熊常吉展：特別企画展。度重なる苦悩を乗り越えて、田熊式ボイラーを発明した、北栄町東園出身の田熊常吉を紹介。株式会社タクマから特別に協力をしてもらっている。

吉田たすく展：倉吉博物館、鳥取県立博物館、伝承館のミュージアムネットワーク連携事業。生誕100年を記念して吉田たすくを改めて紹介するとともに、吉田と関わりのあった工芸家の作品を展示紹介。

生活道具展：北栄町の民俗に焦点を当てた展示。明治・大正・昭和の時代に、生活するうえで実際に使用された道具を展示し、それぞれの時代の生

活の様子的一端を紹介。

北栄町の歴史展：鹿埴輪や人物埴輪など土下古墳群等から出土した埴輪を中心に、町内で出土した埴輪を広く紹介。

常設展示：資料14ページが常設展示の展示計画案です。今年度は生田和孝のコレクション、加藤廉兵衛の土人形の他に、福本和夫のフクロウも展示しています。

委員長：企画展・常設展の説明がありましたが、質問・意見ありませんか。

副委員長：年々入館者数が増えているが、伝承館に限られた人の館になっている気がする。田熊常吉さんの発明、吉田たすくさんが考案した染色方法等、それらがあってどう生活が変わったとか、今の生活にどうつながるのかといった視点での展示をしてほしい。伝承館がいろんな年代の人たちの学びの場になってほしい。夏休み中に子ども、週末に家族連れの人たちが来館する姿につながってほしい。

課長：学校には随時、情報提供している。大栄の方からだと遠いが、バスを使えるようにしている。

門脇：北条小学校の方からはコロナの関係で学習に行くことは難しいが、宣伝はさせてもらいたいと返答をもらっている。大栄小学校からは米作りの道具は教科書にも掲載されているので、ぜひ来たいとのことだったが、コロナの関係で来られなくなってしまった。町内で偏りのないようテーマをピックアップしていきたいと思っている。良いアイデアがあれば教えていただければと思う。

副委員長：次々に良いアイデアは出せないが、すごい業績を紹介するだけでなく、今につながるような展示をお願いします。

課長：運営委員会なので事業の紹介だけでなく、委員の皆さんからも意見をもらって、一緒に作っていききたいと思いで、よろしくをお願いします。

委員長：他にありませんか。

荒木：「砂丘開拓のあゆみ」展だが、小学校だと4年生の学習になる。県の社会の副読本にも掲載されている内容。中部地区の小学校にもお知らせしてはどうか。

課長：町内には案内していたが、中部地区の学校向け案内も検討する。

委員長：その他ありませんか。

中前：梶田新蔵についての教材はあるが、レベルが高すぎるように感じていた。子どもに来てもらうなら、説明文にしても子ども向けにする必要がある。

課長：企画展の全てを子ども向けではなくて、砂丘開拓や昔の生活道具は教科書にも出てくることなので、そのような展示は子どもが見ても分かるような展示にしていく等、視点をどこに持って行くかについては検討していく。

門脇：砂丘開拓については子どもや知らない人向けの展示を心掛けたつもりだが、反省する点もある。

遠藤：お米から始まって、いろんな作物があったりと、そのような流れを子どもたちに知ってもらいたい。

委員長：他にないようですので、郷土の作家たちについてをお願いします。

門脇：【資料15ページ】2023年度については前回の運営委員会で福新幸世さんとな

り、本人からも内諾をいただいている。

5月19日に越野邦夫さんが亡くなられた。越野さんは美術の教員をする傍ら、全国規模の受賞歴がある町内の偉大な芸術家の一人。越野さんの遺作展を2023度開催したい。

2024年度以降については2024年度を山本隆博さん、2025年度を南場優さん、2026年度を吉田収さんで考えている。南場さんは調査が必要で時間がかかるかもしれない。

委員長：みなさんからご意見をお願いします。

門脇：来年度、福新さんと越野さんを取り上げるとなった場合、越野さんは遺作展なので、早い時期の4月頃、福新さんを9月頃での開催で考えている。

委員長：2023年度は福新さんに加えて越野さんの遺作展を4月頃に開催するでよろしいでしょうか。（異議なし）

2024年度以降についてご意見ないでしょうか。

課長：南場さんは南場委員からの推薦だったと記憶しているが、何か情報をお持ちでしたら教えていただきたい。

南場：武蔵野美大に進学し、東大和市で活動。日本現代美術協会に所属。作品については中央公民館大栄分館、大栄中学校にあり、町内に所有している人もいる。高齢で体調を崩されていたようだ。できれば早くに開催した方がいい。

委員長：調査が進めば、2024年度の山本さんと2025年度の南場さんを入れ替えることも考えられますか。

課長：山本さんもタイミングを逃せば頼めなくなる可能性もある。山本さんに下話はしている。開催の順番は事務局にお任せいただけたらと思う。

委員長：3名の方を3年間で開催、順番は事務局にお任せするでよろしいでしょうか。（異議なし）

荒木：基本的には年間1名の開催ですか。

門脇：2名取り上げていた時期もある。

課長：2名できなくはない。バランスを取りながら、2024年度に2つするのも案の一つ。

(2) その他

委員長：何かありますか。（なし）

7. その他

委員長：委員のみなさん何かありませんか。（なし）

8. 閉会